

国語 高1生部門

テストをしっかりと復習し、高1生の今のうちに基礎力を養う勉強を開始しよう！

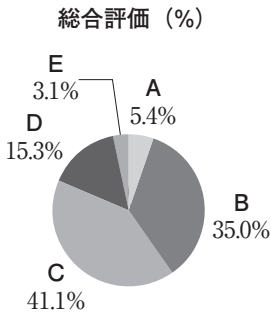
I. 全体講評

10月の「全国統一高校生テスト(高1生部門)」の国語は、第1問の《実用的な文章》の記述式問題と、第2問〜第5問のマーク式問題の出題であった。得点化しない第1問を除いた、第2問〜第5問の平均点は102.8点(100.0点満点)であった。《実用的文章》の記述問題が追加

されたこと、第5問の漢文が、6月に《書き下し文》だったものが、漢文として出題されたことなど、高校生のテストとして本格的な出題となったこともあり、6月に実施されたものと比べ、平均点は下がった。ただ、全体としては、今の時点の成績としてはまずまずであった。高1生なので、今の点数に一喜一憂する必要は全くないが、せっかく受験したテストを有効に使用して、学力を伸ば

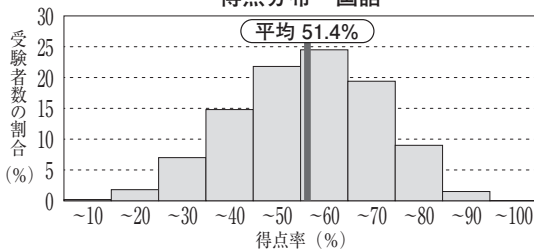
すためには、間違えたところの復習はしっかりとしてほしい。また、さらに上を目指すためにも、解説・解説授業を利用して、出来なかったところ、出来たけれども自信をもって答えていないところを確認して完全理解を目指してほしい。そして、今後、本格的な受験勉強をするために必要な基礎的な力をせひ、今のうちに習得できるよう、勉強を進めて行ってもらいたい。

■記述式問題 (第1問)

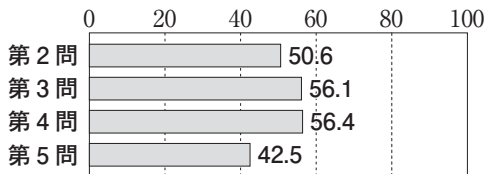


■マーク式問題 (第2問〜第5問)

得点分布 国語



大問別得点率 (%)



さて、今回のテストの結果を分野ごとに見ると、まず、得点化しない《実用的な文章》の第1問の記述問題は、C評価が四一・一%と最も多いという結果であった。また、設問でみると、問1は解答の条件が明確であったため比較的よくできていたが、問3の空欄に入る文章を記述する一二〇字で教師の考え方をまとめる設問は、現状では記述力不足が目立った。ただし、文章構成法の訓練をすれば、今後、大いに伸ばせる余地はある。今回の場合、どのように記述すればよかったかは、帳票に、自分の解答、採点基準、評価項目が記載されているので、しっかりと確認して、理解しておく。

第2問以降のマーク式問題であるが、現代文分野ではまず第2問の評論は、得点率が五〇・六%であった。最も正答率が低かったのは問2で一七・二%であった。誤答は②・③に集中してい

た。詳しくは解説を確認してもらいたい。②は傍線部Bが前の行の出だしの「私」についてであること、③は、傍線部Bの直後の「羞恥心」は一例であるので、そこで立ち止まらず、内容的なかたまりの部分まで確認して答えることができた。ひっかかる確率は減った選択肢である。

第3問の小説は得点率が五六・一％であった。複数の文章を読み比べるという新しい形式にとまどった諸君もいたようだが、現状としてはまずまずの結果であった。ただし、問4については、ほとんど完答できていなかった。この設問は、「すべて選べ」という、正解がいくつなのか示されていない設問であったが、一つ選んで満足している答案が過半数あった。選ばれた選択肢でいけば多かった②は正解選択肢の一つであったが、正しいものがみつかって、それ以上選択肢を検討しないようである。正解数が不明なのだから、全選択肢をきちんと検討するようにしよう。

古典分野だが、第4問の古文の得点率は五六・四％で、現状として良くできていた。唯一正答率が五割を切ったのが問4であったが、この問題を間違えた諸君の中には、古文の最後に引いてある傍線の理由問題であったため、傍線部で立ち止まり、その前の古文を必死に読んで意味を考え解答を選らんだという人もいたようだ。しかし、この問題には鑑賞文がついている。詳しくは解説を確認してもらいたい。鑑賞文には、現代文ではつきり理由が書かれている。このような融合問題の場合、後の現代文にヒントがあることも多いので、設問をみて、すぐに答えられそうになければ、一旦保留にして読みすすめるようにしよう。

最後に第5問の漢文だが、得点率は四二・五％であった。漢文に関しては知識問題・読解問題とも、もう一步の結果であった。最初にも述べたとおり、今回は本格的な漢文の出題であり、漢文の勉強がまだ進んでいないことが結果として表れたようだ。高1生だと漢文の勉強は進んでいない人は多いが、覚えるべきことは少ない。今、漢文を得意にしておければ、国語の成績を大きく伸ばすことができる。ぜひ、主な句法や重要漢字を覚えよう。また、問6の漢詩の形式・修辭の設問は一八・三％の正答率とできなかった諸君がほとんどだったが、漢詩については、形式や修辭法で問われることは決まっている。この機会にきちんと整理して覚えてしまおう。

高1生の現段階での国語の学習としては、現代文・古文・漢文ともに、とにかく基礎的なことをしっかりと習得することが大切だ。また、大学入試について、あまり理解していない高1生が多いと思うが、現高1生は「センター試験」から、「大学入学共通テスト」に変わる、最初の受験生となる。「大学入学共通テスト」については、まだ詳細は確定していないが、高度な読解力が必要となることには間違いがない。思考力や文章全体の把握力などが今まで以上に重視されそうだが、それは

## II. 学習アドバイス

### ◆読解の基礎となる知識を早く身につけよう！

言い換えれば、大学受験生として必要な知識を身につけているのは前提のテストだということである。読解練習に十分な量と質を確保するために、高1生のうちに基礎知識をしっかりと固めておきたい。これができるのであれば、高2で「大学入学共通テスト」レベルの読解力を完成させ、高3では超難関大レベルの読解力の養成に全力を挙げると、という理想的な学習計画が成り立つ。

現代文の語彙や知識は「現代文ハンドブック」、古文単語・古文常識は「古文ハンドブック」、古文文法は「古典文法をはじめからていねいに」、(いずれも東進ブックス)などを活用して身につけていってほしい。

### ◆模試の復習をきっちりやろう！

今回のテストの復習はできているだろうか。ただ受験することだけでは五〇％の価値しかない。復習をしっかりとやってはじめて一〇〇％活用できたことになる。そのことを頭において解答解説を熟読し、一つでも多くのことを学び取ってほしい。また、「合格指導解説授業」はもう受講したであろうか。こちらも活用し、力を高めるようにしよう。

復習とあわせて、返却された成績表をしっかりと読みこんでほしい。東進模試の成績表は情報と学力向上のためのヒントの宝庫だ。各自の成績状況や弱点の分析と、何をどう克服すれば今後の学力・得点力のアップにつながるのかが、はっきりわかるようになってきている。復習の際は必ず手許においておこう。